

ばあちゃんをやきそば

富山県 富山市立豊田小学校 四年

岩折いわおり 奏かなで

「あつ、人参入れんかったわ。」

ばあちゃんは、やきそばを作るとき、必ず何かを入れ忘れる。例えば人参とか玉ねぎとか。でも、毎回がう野菜を入れ忘れるから、一回一回味が楽しめる。私は、ばあちゃんのをそういうところが大好きだ。

そんなばあちゃんが認知症になった。それまで皆が分かっていたことなのに、お母さんはものすごく悲しんでいた。気が付くと、いつも台所で一人で泣いていた。お母さんのお母さんだから、きつとばあちゃんを大好きな気持ちはずつとずつと大きくなる。

ばあちゃんの認知症はまだ軽いそうさ。でも、私がいに行っても、帰ってきて電話をすると、私に来たことをおぼえていない。私が小さいころから作ってくれたたぐさんのおかずも、もうほとんど作ってくれない。

それから、私は毎週土曜日、朝の水泳が終わると、ばあちゃんの家に行って一緒にトランプをするようになった。じいちゃんも参加してのババぬきと七ならべ大会だ。この二つだけは、スムーズに進んですこくもり上がる。

そんな中、ある土曜日、いつものようにばあちゃんの家に行くと、

「奏、一緒にやきそばを作ろう。」

とばあちゃんが話しかけてきた。私は「大丈夫かな。」と、ちよつと心配になったけど、

「いいよ。じゃあ野菜切るね。」

と答えた。私は、たのまれた人参とピーマンを切り始めた。野菜を切りながら、ちらちらとばあちゃんの方を見ていたら「集中して切らないと、大切な指を切っちゃうよ。」

とばあちゃんに注意された。野菜とめんをいためるのはばあちゃんの仕事。なので私はその間おにぎりを作ることにした。にぎりながら、ふと見ると、今日はピーマンが置き去りにされていた。私は「これ入れてないよ」とばあちゃんに言おうとしたけど、ちよつと考えて、やっぱ言いわないことにした。

私は今四年生。これからは、今までよりもっとたぐさんの「大好き」を、ばあちゃんに伝えていきたい。赤ちゃんのときから、どんなときでも私のことを一番に考えて、とても大事にしてくれたばあちゃん。ばあちゃんが私のばあちゃんできてくれることを、私は今とても幸せに思う。できればずつと皆や私のことをおぼえていてほしいけど、どんなばあちゃんになっても、これからも一緒にトランプをして皆でいっばい笑いたい。ばあちゃん、いつもありがと。また、一緒にやきそば作ろうね。